

第11回日本抗加齢医学会総会の報告と御礼

5月27日(金)～29日(日)に国立京都国際会館にて主テーマを「アンチエイジングの心の眼を拓く—An Enlightening Focus on the Future Anti-Aging Medicine—」として、第11回日本抗加齢医学会総会(学会長:木下茂教授)を開催いたしました。一時は東日本大震災、福島原発事故の影響もあり、開催を不安視も致しましたが、当日は3600名を超えるご参加を頂き、無事開催することができました。主な内容といたしましては、特別講演として吉川敏一学長(京都府立医科大学)、門脇孝教授(東京大学

糖尿病・代謝内科)、石川冬木教授(京都大学 生命科学研究所)にご講演いただきました。また会長企画シンポジウム『健康長寿へのアプローチ』では、日本抗加齢医学会の立場から吉川敏一理事長、国立長寿医療研究センターの立場から大島伸一総長、農林水産省の立場から日野明寛氏(農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所領域長)、一般の立場から堀場政夫氏(堀場製作所最高顧問)にご講演いただき、健康長寿の実現に向けた活発な討論を行いました。さらに千玄室大宗匠(茶道裏千家15代家元)をお招きし「茶道と長寿」と題したご講演を頂くとともに、会場では東日本大震災復興支援チャリティー茶会を茶道裏千家淡交会と共催しました。そしてベーシックサイエンスの側面から今回の特別企画として羽室淳爾特任教授(京都府立医科大学)を中心に最先端の研究者にお集まりいただき、「抗酸化環境応答と加齢」、「組織炎症と肥満・生活習慣病」、「加齢疾患とエピジェネティクス」など抗加齢医



学に関する基礎医学的研究に焦点をあてた集中的なシンポジウム・ワークショップ開催いたしました。その他にシンポジウム(34セッション)、コメディカル対象の指導士プログラム、一般演題(229題)など盛りだくさんの内容で、参加者の皆様にはアンチエイジング医学をしっかりと学んでいた3日間でした。このように第11回日本抗加齢医学会総会を成功裡に終えることが出来ましたのも皆様のご支援のおかげと感謝しております。ありがとうございました。

事務局長 上野盛夫



スリーサム2011京都

2011年7月8日(金)～10日(日)の3日間、国立京都国際会館におきまして、日本眼感染症学会、日本眼炎症学会、日本コンタクトレンズ学会の3つの学会が合同で、スリーサム2011京都を開催いたしました。今年は、第48回日本眼感染症学会の学会長を当教室の外園千恵講師が、第45回日本眼炎症学会の学会長を神戸海星病院眼科の安積淳先生が、第54回日本コンタクトレンズ学会の学会長を当教室の大先輩である小玉裕司先生が担当され、参加者が総数1883名と多くの方に参加していただき、大盛況のうちに終わりました。

第48回日本眼感染症学会では、日常的診療で遭遇する結膜炎・角膜炎について広範囲に学んでいただけたと思います。また、第45回日本

眼炎症学会では、ぶどう膜炎を中心に眼炎症全般について学んでいただけたと思います。第54回日本コンタクトレンズ学会総会では、コンタクトレンズについて基礎から応用・未来まで幅広く学んでいただけたと思います。スリーサム2011京都が、ご参加いただいた眼科医の先生方の一般診療にお役立ていただけることを楽しみにいたしますとともに、スリー

サム2011京都開催に際してご協力いただきました関係者の皆様にこの場をかりてお礼申し上げます。

上田真由美



第11回 Refractive Surgery Update Seminar in Kyoto

今年もRefractive Surgery Update Seminar in Kyotoが、7月23日土曜日に開催されました。元々はLASIK関西研究会の名称でスタートしたセミナーで、今年も第11回を数えます。毎年参加人数は増え続けており、今年も多くの参加者がありました。名称の変更からも分かる通り、近年の白内障手術手技の進歩、付加価値眼内レンズの開発、角膜移植手術手技の革新などに伴って、非常に高度の手術後Quality of Visionが要求されるようになり、エキシマレーザーによるLASIKに代表されていた屈折矯正手術が、他の様々な専門分野とのオーバーラップするよう変化して来ています。実際の臨床において治療の選択肢が増えることはありがたいのですが、全てについて熟知し、各症例にとって最良の治療法を提示することが難しくなっており、当セミナーの重要性が高まっているものと思われま

す。今年も第1部検査編(午前)と、第2部手術編(午後)の2部制でまとめられていました。検査編ではまず、屈折矯正のBest indicationと題し、オルソケラトロジー(吉野先生)、LASIK(稗田先生)、phakic IOL(中村先生)、マルチフォーカルIOL(大木先生)の4つの方法について口演がされました。単純に各々を比較することは難しいですが、各治療法の選択に、ヒントを得られました。角膜形状異常眼(PTK/LASIK術後)の白内障度数合わせとして、角膜トポグラフィ(前田先生)、多焦点眼内レンズ挿入(荒井先生)、no history法(根岸先生)、光線追跡法(宮田先生)の4口演がありました。近年世界中で最も注目されているトピックスの一つですが、なかなか決定打がないのが現状であろうと思います。午後の手術編では、まずプレミアムIOLの実際として、大学病院での使用(松島先生)、トーリックと多焦点の使用(井上先生)、トーリックと新しい多焦点の使用(林先生)についてお話

しいいただきました。やはり症例の選択が最重要であるとのことでした。続いてRefractive Surgery Updateとしてthin flap LASIK(坪井先生)、phakic IOL(神谷先生)、フェムトセカンド角膜移植(天野先生)、フェムトセカンド白内障(ピッセン宮島先生)の口演がありました。フェムトセカンドレーザーを使用しないで行うthin flap LASIKの成績、ますます適応が拡大しているphakic IOLの長期成績、今後屈折矯正手術としての性質がさらに重要になってくるであろう角膜移植、昨年からのたった1年で圧倒的に進歩したフェムトセカンド白内障手術と、全国規模の専門学会に参加する以上の内容でした。屈折矯正手術に関する最新かつ重要な情報を、京都で、たった1日でアップデートできる大変お得なセミナーで、今年も充実した内容でした。

京都府立医大眼科 中井義典

編集後記

お待たせいたしました。Eye Treat革命第13号をお届けします。

これまでと同様、本号でも、長足の進歩を遂げている眼科の革新的治療や府立医大眼科のアクティビティの情報が満載です。隔々までお楽しみください。編集部では、みなさまのご意見を広く募集しております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。(編集部)

EYE Treat 革命 編集部(稗田 牧、永井淑子) 京都府立医科大学 眼科 〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上る梶井町465 TEL: 075-251-5578 FAX: 075-251-5663